

オートバイが停まって

半仏マキ子

忘れられない光景があります。帯広市内の六花亭のお店に寄ったときのこと、表にナナハンの大型オートバイが五台並んで停まっている。ヘルメットを手にした黒いライダーズスーツの男性たちが入っていく姿に意表を突かれたのですが、そのあとの展開も鮮烈でした。

ドリンクコーナーで熱いコーヒーとお菓子を味わいながら、みんな少年の笑顔。長いツーリングの途中、このひとときを過ごすためにわざわざ六花亭を目指してやって来たのだと思いたると、胸が熱くなりました。七、八年前の出来事です。

拙著「日本のすごい味」(新潮社)で六花亭について詳しく書かせていただいたりして以来の経験ですが、お仕事の精神について伺ったさいの小田豊さんの言葉も忘れられません。「いちばんうれしいのは「六花亭」のお菓子は健康な味だね」という言葉をいただくときです」。続けて「だから社員みんなが健康でなくては」とも仰いましたね。

そのとき、胸に落ちました。お店や工場で働く方々と会社が絆を結び合っているからこそ、だれに対しても誠実で明るく空気が醸成されている、うそのないまっすぐな味が生まれているのだと。これを実現させるのは、じつは極めてむずかしい。私は、小田さんの言葉を、食べるひとの心身の健康を担う心構えとしても理解したのでした。

六花亭のすこやかなお菓子をあなたのおやつとして味わっていらっしやる北海道の方々、心臓うらやましい。そんなおやつを、表にゆかりで飾っていたオートバイの記憶が蘇ってくるのです。

〈アタシハハナマキ子 半仏マキ子〉

